令和２年度　教育の質向上支援プログラム（ＮＥＥＰ）進捗状況報告書

取組主体（代表部局）	医学研究院
申請者（部局長）	北園　孝成（医学研究院長）
連携部局	九州大学病院国際医療部
取組の名称	保健学における国際教育・研究におけるジェミニ・プロジェクトの推進
事業期間及び支援期間	事　業　期　間：令和元年度～令和２年度以降も継続 うち支援期間：令和元年度～令和２年度
取組の概要 （４００字以内） キーワードとなる語句に下線を付すこと（五つ以内）。	保健学部門では海外主要大学との学部間MOU締結を踏まえ教育研究における国際交流を推進してきた。本取組では、更なる教育の国際化に加え国際共同研究の促進をめざし、① サマースクール開設や保健学国際フォーラム開催による留学生の受入・交流の活性化（インバウンド）、② 学部生･大学院生の短期留学の拡大（アウトバウンド）、③ 九州大学病院国際医療部との連携による遠隔医療教育システムの活用により、①②で構築した教育研究基盤の継続化を計る。63カ国602施設との遠隔医療支援実績を誇る国際医療部の協力により、留学できない学生にも広く効率よく国際交流の機会が与えられ教育効果の拡充のみならず、大学院生や教員の国際共同研究の推進と教員の国際的教育力向上も期待できる。保健学部門と九州大学病院国際医療部との連携（ジェミニ：双子の協力）により学生と教員、教育と研究、短期留学とその継続化において相乗的波及効果が期待できる。　400字

取組実施担当者　※欄が足りない場合は、追加してください。

ふりがな 氏　　名	担当学府・学部	職名	現在の専門	役割分担
ちしゃき　あきこ 樗木　晶子	医学研究院・保健学部門	教授 （部門長）	医学・臨床看護学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（統括）
はとの　ようこ 鳩野　洋子	医学研究院・保健学部門	教授	公衆衛生看護学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（サマースクール開設）
ふじた　きみえ 藤田　君支	医学研究院・保健学部門	教授	臨床看護学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（短期留学の拡大）
はしぐち　のぶこ 橋口　暢子	医学研究院・保健学部門	教授	基礎看護学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（サマースクール開設）
なかお　ひさこ 中尾　久子	医学研究院・保健学部門	教授	臨床看護学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（国際フォーラム開催）
たにぐち　はつみ 谷口　初美	医学研究院・保健学部門	教授	母性・助産学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（短期留学の拡大）
もろくま　せいいち 諸隈　誠一	医学研究院・保健学部門	教授	産科･婦人科学	看護学分野におけるプロジェクトの推進（遠隔ネットワーク利用）
ささき　　まさゆき 佐々木　雅之	医学研究院・保健学部門	教授	核医学	医用量子線科学分野でのプロジェクトの推進（サマースクール開設）
もりした　じゅんじ 杜下　淳次	医学研究院・保健学部門	教授	放射線画像技術学	医用量子線科学分野におけるプロジェクトの推進（短期留学の拡大）

（①部局名：医学研究院保健学部門　②取組名：保健学における国際教育･研究におけるジェミニ･プロジェクトの推進）

やぶうち　ひでたけ 藪内　英剛	医学研究院・保健学部門	教授	画像診断学	医用量子線科学分野におけるプロジェクトの推進(短期留学の拡大)
ありむら　ひでたか 有村　秀孝	医学研究院･保健学部門	教授	医用画像情報学	医用量子線科学分野でのプロジェクトの推進(国際フォーラム開催)
ふじもと　しゅうじ 藤本　秀士	医学研究院･保健学部門	教授	細菌学・臨床微生物学	検査技術科学分野におけるプロジェクトの推進(短期留学の拡大)
みずの　しんいち 水野　晋一	医学研究院･保健学部門	教授	血液学･血液検査学	検査技術科学分野でのプロジェクトの推進(国際フォーラム開催)
かつた　ひとし 勝田　仁	医学研究院･保健学部門	教授	内分泌代謝学・臨床生理学	検査技術科学分野でのプロジェクト推進（遠隔ネットワーク利用）
しみず　　しゅうじ 清水　周次	九州大学病院国際医療部	教授	消化器外科・遠隔医療	国際交流・学術支援(遠隔ネットワーク利用の指導･協力)
もりやま　ともひこ 森山　智彦	九州大学病院国際医療部	准教授	消化器内科・遠隔医療	国際交流・学術支援(遠隔ネットワーク利用の指導･協力)
くどう　くりこ 工藤　孔梨子	九州大学病院国際医療部	助教	芸術工学・遠隔医療	国際交流・学術支援(遠隔ネットワーク利用の指導･協力)

申請経費	年　度		令和元年度（１年目）	令和２年度（２年目）	総　額
	取組規模		2,962 千円	2,996 千円	5,958 千円
	内訳	NEEPによる支援申請額	1,462 千円	1,400 千円	2,862 千円
		部局負担額	1,500 千円	1,596 千円	3,096 千円

※様式の枚数及び字数の上限は特に定めませんが、読み手に配慮した文量で作成すること。

【目的・趣旨】

※NEEPの目的・趣旨を踏まえた、取組の目的等が明確にされているか。

本取組の目的は、保健学部門と九州大学病院国際医療部の2部局の協力により（ジェミニ：双子の協力）、保健学部門の学部生や大学院生の短期留学やその継続化、学部と大学院教育の国際化、教育と研究における更なるグローバル化を図り、医療の一翼を担う保健学の教育・研究の活性化を目指すことである。下記の3つの取組を主軸として2年間はNEEPとして施行した後、自己資金やその他の外部資金を取得して継続する予定である。

① 保健学サマースクール開設や保健学国際フォーラムの開催により、海外の複数の国の保健医療専門職を目指す学生との国際交流を活性化すること(インバウンド)
② 学部生の短期留学により海外の医療福祉の実際を学ぶとともに、大学院生の国際的研究発表を促進すること(アウトバウンド)
③ 九州大学病院国際医療部と連携し、遠隔医療教育システムを活用した学生と教員の教育・研究交流基盤の発展と継続化を図ることである。

保健学部門における国際交流の一環として平成24年から、タイのマヒドン大学、チュラロンコン大学、台湾の高雄医学大学、平成29年度からは香港大学と学部生の短期交換留学を実施し、毎年留学生の受入れと保健学科学部生の派遣を行ってきた。平成30年度は、同時に三校から留学生を受入れ、九州大学病院国際医療部の協力により遠隔医療教育システムを活用し、マヒドン大学の看護学教員との交流も行うなど、プログラムの充実化を試みてきた。
大学院生や教員においては、大学院博士課程の保健学国際コースでの安定した留学生の受け入

れに加え、看護学分野は平成30年、フィンランドのオウル大学との教員と大学院生の研究交流を開始した。医用量子線科学分野では、平成24年度から韓国・高麗大学からの教員・大学院生の受け入れや大学院生の短期留学派遣、平成26年度からタイ・マヒドン大学、チュラロンコン大学との大学院生の相互派遣、平成29年度から中国・清華大学への大学院生派遣、等を行ってきた。検査科学分野では、マヒドン大学，高麗大学，高雄医学大学などと交流をもった。
　さらに、これまで12年間開催してきた保健学国際フォーラムでは、高雄医学大学、マラヤ大学、マヒドン大学、チュラロンコン大学、ハワイ大学などから教員・学部学生を招待し、講演会を開催すると伴に、保健学科学部生企画によるスチューデント・ミーティングを主体的に開催し、本学学生との国際交流の機会を設けてきた。

　このような現状を踏まえた保健学部門における教育・研究の国際化の課題として、
① 留学生受入れプログラムの基盤は整備されつつあるため、次は、そのプログラムをサマースクールとして、単位互換も含めた魅力ある留学カリキュラムとして発展させることである。
② 短期留学を経験できる学生数の増大は、時間・経費面で厳しい状況にあること、留学後の国際間学習の継続環境が乏しいために国際交流の拡充と継続が困難であった。その打開策として、
③ 九州大学病院国際医療部との緊密な連携により遠隔医療教育システムを活用し、学生の国際経験の拡充と継続性をはかることが重要課題であると考えている。

　本部門において、看護分野71%、医用量子線科学分野55%、検査科学分野39%の教員が科学研究費を取得して研究にも取り組んでいる。国際フォーラムで招待したハワイ大学の看護学教授と本学の看護教員の間で、国際共同研究が開始されたが、そのレベルまでに到達できているものは限られており、今後、教員や大学院生の研究における国際化を促進することも本取組みの大きな目標である。

【取組の内容】
※募集要項の内容に沿った取組となっているか。

①-1. サマースクールの開設とインバウンド留学生の受け入れ拡充
　インバウンド留学生向けにカリキュラムを作成し、毎年7月に2週間のサマースクールを開設する。本カリキュラムは、本学学生とともに講義や演習に参加し、また九州大学病院にて見学実習を行うなど本学独自の教育内容で構成する。教育の国際化の促進は中期目標に沿ったものであり、サマースクールにより留学生を受け入れることで、本学学生の国際交流の好機となり、国際医療の場で活躍できるリーダーの育成に繋がるものである。さらに、将来的には交流校とは国際保健関連科目として単位付与の準備をすすめ、単位互換性を検討する。

①-2. 保健学国際フォーラム開催による大学院生の国際研究の促進
　これまで12年にわたり保健学国際フォーラムを開催してきた。本フォーラムは、学生のアクティブラーナーとしての素地を磨くことも重視し、学生主体の企画であるスチューデント･ミーティングも毎年実施している。13回目となる今年は、大学院生や教員の研究成果発表をポスター展示にて行う企画も予定している。海外からの招待者に本学の教育・研究の現状を紹介し、今後の教育･研究の連携に繋げる。さらに、海外から参加する指導的役割をもつ教員を、これまでは部門から1名の招待であったのに対し、３分野から複数人招待することで、さらなる大学院生や教員の国際研究を促進する。

② 学部生、大学院生の短期留学（アウトバウンド）の機会拡充と継続化
　これまで交流実績のある大学への派遣の機会を拡大するとともに、将来的には短期留学に参加した本学学生にも国際保健関連科目として単位付与を検討する。また、研究の国際化の促進も中期目標に沿ったものであり、看護学分野では平成29年に香港大学看護学部とMOUを締結し、香港大学が主宰する国際フォーラムに本学の大学院生と教員が毎年参加し、研究発表するようになった。平成30年にはフィンランドのオウル大学医学部看護学科とMOUを締結し、博士課程大学院生の短期留学が実現し、共同プロジェクトを検討している。本取組みにより、定期的大学院生の派遣と教員の国際共同研究を予定している。医用量子線科学分野では、これまで実績のある韓国・高麗大学、タイ・マヒドン大学、チュラロンコン大学、中国・清華大学への大学院生の短期派遣、研究面での交流を継続していく予定である。

③　九州大学病院国際医療部と連携した遠隔医療教育システムの活用
　国際交流を継続する事は、相手国によっては費用面での過重な負担が生じ大きな問題となる。双方向の交流開始後も継続した国際交流を実施するため、九州大学病院国際医療部との連携によ

り遠隔ネットワークを活用する。国際医療部は、世界63カ国、602カ所の大学や医療機関とのネットワークを介した医療や研修など多くの実績を有している。その高速ネットワークシステムを活用することで、効率のよい継続的な交流が多くの施設と可能となるため、一時的な交流にとどまらず、国際交流の量的拡充と質的充実につながると考える。これまでの交流校以外にも研究レベルの高い大学との研究教育における新規の国際交流も可能となり、グローバルに活躍できる研究者の育成につながる。遠隔医療教育システム*の活用により、大学院生や教員の交流が活性化されれば、共同研究の企画や発展が効率的に促進されることが期待できる。特に、アジアで大学ランキングが高いマヒドン大学とは、すでに遠隔医療教育システムが現任教育に活用されており、今後の研究交流を強化するための整備を進めていく。

*遠隔医療教育システムの利点は、１）移動時間の節約、２）旅費の削減、３）継続性、４）拡張性(多くに人に発信可能)である。

【取組の実施計画】（支援期間の計画については経費申請書と関連するため、箇条書きとすること）
※目的を達成するための実施計画が明確に示されているか。

令和元年度

①-1.保健学サマースクールのカリキュラム作成と海外の複数大学からの留学生受入れ
本学学生が留学生と合同で学ぶ機会を提供するために下記の計画で留学生を受け入れる。

- 保健学サマースクールのカリキュラムの検討(4月～5月)
- 海外大学との受け入れ人数、日程・内容調整(4月～5月)
  高雄医学大学、香港大学、マヒドン大学、チュラロンコン大学等からの6名の学生を受け入れ
- サマースクール実施(7月)
- 評価 (8月～9月)

①-2.保健学国際フォーラムの開催、海外研究者の招待による大学院生･教員との研究交流の促進
下記のスケジュールで計画している。

- 国際フォーラム企画会議(4月)
- 企画に基づいた海外研究者への招聘交渉
  看護学分野、医用量子線科学分野、検査分野よりそれぞれ1名、計3名を招聘
- 国際フォーラムの実施(11月)
  国際フォーラムにおける招聘教員のプレゼンテーション
  教員・大学院学生の英語によるポスターセッションの開催
  各分野毎の海外研究者と大学院学生および教員とのゼミの実施
- 評価(11月～12月)

② 学部生、大学院生の短期留学（アウトバウンド）の機会拡充と継続化
学部生の短期留学派遣の経済的補助を行い、これまで交流実績のある大学において、
国際医療　福祉の実際を学ぶ機会を得る学生数の拡大を図る。

- 派遣学生選定基準の検討(4月)
- 派遣先大学との派遣可能人数、日程・内容調整(4月～5月)
- 学部：高雄医学大学、香港大学、マヒドン大学等へ6名程度の学生を派遣
- 大学院：高麗大学、チュラロンコン大学、清華大学等へ各2～3名程度の学生を派遣
- 学生への周知(4月～5月)
- 派遣学生選抜(6月)
- 学生派遣　(夏休み・春休み期間を予定)
- 評価　(3月)

③ 九州大学病院の遠隔医療教育システムを活用した短期留学後の継続交流

- サマースクール実施時に遠隔医療教育システムによる意見交換のカリキュラムの試行
- 次年度サマースクール時の相互講義の実施調整
- 次年度講義の中での遠隔講義の実施調整
- 次年度に向けた、大学院生の相互研究発表、意見交換の可能性の調整と準備

令和元年度実施計画に係る進捗状況

※令和元年度の実施計画に対し、実際に実施した事項、当初の計画を越えて実施した事項など特筆すべき事項、進捗状況を踏まえ、改善する事項等について、具体的に記載してください。

①-1看護学分野では、サマースクールのプログラムを、昨年度実施した短期留学受け入れプログラムを基に作成し、7月に2週間、マヒドン大学、高雄医学大学、香港大学より予定の人数を超えた計9名の留学生を受け入れた。プログラムの評価については、3校の教員が本学来訪した際にも、その成果について情報交換を行う機会を設け行った。また、検査学分野では、アンヘンス大学より1名、台北医学大学より2名受け入れを新規に行い、受入大学の拡大を図った。さらに、医用量子線科学分野では、マヒドン大学デイポネゴロ大学、バンドン工科大学と多くの大学より受け入れを行った。

看護		検査		医用量子線	
マヒドン大学　4名	7/8-7/19 (2週間)	アンヘレス大学　１名	11/14-11/18 （５日間）	マヒドン大学　6名	4/1～4/26 （約1ヶ月）
香港大学　2名		台北医科大学 ２名	2/25-2/28 （４日間）	ディポネゴロ大学　1名	4/1～4/26 （約1ヶ月）
高雄医学大学　2名				バンドン工科大学　1名	10/1～12/26 （約3ヶ月）

①-2　4月には保健学部門国際連携推進委員会にて、国際フォーラムの企画、準備等を開始し、11月15日に保健学国際フォーラムを開催した。海外からは、看護分野では香港大学、釜山大学より、医用量子線科学分野では、デイポネゴロ大学　検査科学分野からはAngeles University Foundationより計画した人数より大幅に多い海外研究者計10名招待した。各分野において、フォーラム前後日も活用し、招待講師によるプレゼンテーションや教員、学生とのゼミなどを行った。本専攻の教員、学生の研究成果についてもポスター展示を行い、国際共同研究のシーズ発掘のための機会を設けた。本フォーラムの評価は、参加者からのアンケート結果等をもとに委員会で行った。

②学部生の派遣の選考においては、JASSOの派遣基準を参照し、英語スコアやGPA、留学の志望動機等などをもとに行った。学部生は、マヒドン大学、マラヤ大学へ、大学院生等は、高麗大学、マヒドン大学、精華大学等に派遣した。計画していた香港大学や高雄医学大学の派遣は、学生のリクルートなど準備は進めたが、社会情勢の悪化、コロナウイルス感染拡大の問題が生じ実施できなかった。

看護		医用量子線			
マヒドン大学　２名	8/26-9/6 (2週間)	高麗大学, 大学院生3名,	10/14～10/28 （約2週間）	マヒドン大学, 大学院生3名	10/21～11/1 （約10日）
検査		台湾国立清華大学, 大学院生1名	11/5～11/25 （約20日）	慶熙大学校原子炉センター，研究生1名	1/7～1/10 （4日間）
マラヤ大学　１名	2/22-3/5 (2週間)	台湾国立清華大学, 大学院生1名	12/9～1/10 （約1ヶ月）		

③九州大学病院国際医療部の協力により７月に開催されたQRシンポジウム（伊都キャンパス）に保健学部門より招聘した３名（マヒドン大学、サバ大学、高麗大学）の海外研究者の講演内容を「国際医療と保健」、「検査技術学特別研究」などの科目履修者に視聴させた。また、オウル大学（フィンランド）、香港大学など、海外から研究者が来訪した際には、遠隔システムの概要を説明する機会を設け、システム活用の可能性について意見交換を行った。

令和２年度

①-1. サマースクールのカリキュラムの見直し、およびサマースクールを継続実施

・ 昨年度の評価に基づく保健学サマースクールのカリキュラムの修正(4月～5月)
・ 海外大学との受け入れ人数、日程・内容調整(4月～5月)
高雄医学大学、香港大学、マヒドン大学、チュラロンコン大学等から10名程度の学生を受け入れ
・ サマースクール実施(7月)
・ 評価・報告書作成(8月～9月)

①-2. 第15回保健学国際フォーラム記念大会を開催
15年目を記念し、第15回保健学国際フォーラム記念大会を開催し、海外からの研究者・学生との交流をさらに促進する。
・ 国際フォーラム企画会議(4月)
・ 企画に基づいた海外研究者への招聘交渉
看護学分野、医用量子線科学分野、検査分野より　それぞれ1名、計3名を招聘、
・ 国際フォーラムに向けた提携大学からのビデオメッセージの送付依頼・調整
・ 国際フォーラム記念大会の実施(11月)
提携大学からのビデオメッセージ(学部長・過去に国際フォーラムに参加した海外学生)
国際フォーラムにおける招聘教員のプレゼンテーション
教員・大学院学生の英語によるポスターセッションの開催の拡大
分野毎の海外研究者と大学院学生および教員とのゼミの実施
・ 評価・報告書作成(11月～12月)

② 学部生、大学院生の短期留学派遣の経済的補助と交流校の拡大
派遣学生数を拡大する。
・ 派遣学生選定基準の再検討(4月)
・ 派遣先大学との派遣可能人数、日程・内容調整(4月～5月)
・ 学部：高雄医学大学、香港大学、マヒドン大学等へ10名程度の学生を派遣
・ 大学院：高麗大学、チュラロンコン大学等に加え、新たな派遣先へ6～8名程度の学生を派遣
・ 学生への周知(4月～5月)
・ 派遣学生選抜(6月)
・ 学生派遣　(夏休み・春休み期間を予定)
・ 評価・報告書作成(3月)

③ 遠隔医療教育システムの活用による大学院生や教員の研究発表や教員の英語による講義
・ サマースクール実施時の遠隔医療教育システムによる講義の実施調整(4月～5月)
・ サマースクール実施時の遠隔医療教育システムによる講義の実施(7月)
・ 令和元年度　受け入れ・派遣学生のフォローアップ・遠隔ミーティングの実施(時期未定)
・ 学部講義の中での遠隔講義の実施(時期未定)
・ 大学院生の相互研究発表・意見交換の実施(時期未定)
・ 海外派遣の単位化に対する調整

令和２年度実施計画に係る進捗状況

※令和２年度の実施計画に対し、実際に実施した事項、当初の計画を越えて実施した事項など特筆すべき事項、進捗状況を踏まえ、改善する事項等について、具体的に記載してください。

①-1サマースクールのカリキュラムの見直し、およびサマースクールの継続実施

R2年度と同様マヒドン大学、香港大学、高雄医学大学に加え、R3年度からは台北医学大学からもあらたに留学生を受け入れる準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症のために、サマースクールは実施できなかった。コロナ感染の状況が落ちつき直接往来が可能になった際に実施できるよう、看護学分野国際WGでカリキュラムの見直しを行った。

①-2. 第15回保健学国際フォーラム記念大会開催

R3年度は、例年対面でおこなっている国際フォーラムをオンライン（ハイブリット型）で開催した。開催にあたっては、九州大学病院国際医療部の協力を得て実施した。
特別講演には、九州大学病院国際医療部清水周治先生を招き「Telemedicine in Asia and beyond: Benefits and challenges」というタイトルで講演頂いた。また看護学分野では、Dr.Ruttanaporn Kongkar/Mahidol University（Thailand）、医用量子線科学分野では、Prof. Kwan Hoong Ng/University of Malaya（Malaysia）、検査技術科学分野ではProf.Mehmet Bülent ÖZDEMİR,Daniş AYGUN, Dr. Daniş AYGUN/Pamukkale University（TURKEY）を招待した。各専攻に分かれてのStudent Meetingの企画では、三専攻とも本学学生や海外の学生がプレゼンテーションを行い、交流を行うことができた。また、専攻によっては、国際フォーラム開催にむけて事前に実施・計画など討議する場をオンラインで設け、学生主体の企画となるよう運営した。特別講演は、265名、Student Meetingは、看護110名、医療量子線99名、検査65名の教員、学生が参加した。

学生交流(国際フォーラム関連)					
分野	月　日	交流校（国）	内容	学年（本学）	人数
看護	10月26日	マヒドン大学（タイ）	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	学部・２年	11名（教員含む）
看護	11月11日	マヒドン大学（タイ）	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	学部・２年	16名（教員含む）
看護	11月18日	マヒドン大学（タイ）	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	学部・２年	17名（教員含む）
放射	11月20日	マラヤ大学(マレーシア)	国際フォーラムStudent　Meeting	学部・大学院生	87名（学生のみ）
検査	11月10日	パムッカレ大学（トルコ)	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	博士・1年	6人（教員含む）
検査	11月12日	国立台湾大学（台湾）	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	修士・1年	2人（教員含む）
検査	11月17日	パムッカレ大学（トルコ)	国際フォーラムStudent　Meeting　企画、実施について	博士・1年	6人（教員含む）

②学部生、大学院生の短期留学派遣の経済的補助と交流校の拡大

学部生、大学院生の短期留学については、新型コロナ感染症拡大により直接往来が不可であったため、遠隔にて実際される留学プログラムへの参加、国際会議等への参加や、海外の医療システム等を学ぶ研修会への参加など、コロナ禍においても英語で交流できる場への参加を促した。交流校の拡大としては、台北医学大学との交流をR2年度から開始予定としており、オンラインではあるが、留学プログラムの案内があり、本学学生が参加した。

学生派遣				
分野	月　日	交流校	プログラム	学年・人数
看護	1月25日～２月5日	台北医学大学	2021 TMUN Online Inbound Program.	修士１年・１名
看護	2月27日	オランダ	オランダにおけるビュートゾルフ（地域在宅ケア）を学ぶ研修会	学部・２年・2名
放射	7月11日～7月14日		67th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging	修士1年・2名、 修士2年・2名、 博士3年・1名
放射	7月12日～7月16日	国際会議	The 2020 Joint AAPM｜COMP Virtual Meeting	修士2年・2名、 博士2年・2名
放射	9月24日～25日	国際会議	The 10th International Seminar on New Paradigm and Innovation on Natural Science and Its Application (ISNPINSA-10) Virtual Meeting	修士1年・3名、 修士2年・1名
放射	10月31日～11月7日	国際会議	2020 IEEE NSS&MIC(Boston, USA)	修士2年・1名
放射	12月3日～12月5日	国際会議	20th Asia-Oceania Congress on Medical Physics AOCMP&SEACOMP2020 The Virtual and Face to Face Meeting at Phuket, Thailand,	修士1年・2名、 博士2年・1名
放射	1月18日～2月5日	国際学会	15th International Congress of the International Radiation Protection Association	修士1年・2名

③遠隔医療教育システムの活用による大学院生や教員の研究発表や教員の英語による講義

サマースクールにおける英語での講義の機会を設けることはできなかったが、遠隔にて、教員や大学院生が参加する研究交流を活発に実施し、英語によるプレゼンテーションの場を設け行った。海外派遣の単位化については、2024年以降の看護師養成課程における指定規則の改正を受け、カリキュラムWGを立ち上げた際に、議題として取り上げ、学生の海外留学志向を向上するための方策の１つとして検討を行っている。

研究交流				
分野	月　日	交流校（国）	内容（研究タイトル等）	主な参加者・人数
看護	10月2日	オウル大学（フィンランド）	Changes in 15D instrument and physical function of patients with total hip / knee arthroplasty.	藤田君支教授、Prof,Pirjo Kaakinen, Prof,Heidi Siira　他４名
看護	11月4日	ガチャマダ大学（インドネシア）	“Factors Causing Heat Strain in the Use of Personal Protective Equipment by	橋口暢子教授、Dr. Titis Wijayanto
看護	9月11日	マレーシア大学・サバ校（マレーシア） ガジャマダ大学（インドネシア） ビアニ大学（インド） アジア工科大学（タイ） 貴州省疾病予防センター（中国） グラミンコミュニケーションズ（バングラデシュ）	共同研究者機関との遠隔医療に関する合同ウェビナーの開催（Zoom Seminar for Portable Health Clinic, Telemedicine for the post COVID-19 era in Asia）	中島直樹教授（九大病院）、菊地君与講師、佐藤洋子助教、Dr. Helen Lasimbang, Assoc. Prof. Lutfan Lazuardi, Prof. Manish Biyani, Prof. Faiz Shah 他10名
看護	10月24日	ノルウェー科学技術大学（ノルウェー）、コペンハーゲンビジネススクール（デンマーク）、ダッカ大学（バングラデシュ）、アジア工科大学（タイ）他、	遠隔医療研究に関する活動紹介（Entrepreneurship week 2020）	アハメッド准教授（システム情報科学研究院）、菊地君与講師、佐藤洋子助教、Prof. Artur Serrano, Dr. Raghava Rao Mukkamala, Dr. Rakibul Hoque, Dr. Faiz Shah他約15名
看護	12月7日	ガジャマダ大学（インドネシア）	遠隔医療システムに関する共同研究活動の協議	中島直樹教授（九大病院）、菊地君与講師、佐藤洋子助教、Assoc. Prof.Lutfan Lazuardi, Dr. Nurholis Majid 他9名
看護	12月23日	ガジャマダ大学（インドネシア）	遠隔医療システムに関する共同研究活動の協議	菊地君与講師、佐藤洋子助教、中島直樹教授（九大病院）、Assoc. Prof.Lutfan Lazuardi, Dr. Nurholis Majid 他9名
看護	1月29日	ガジャマダ大学（インドネシア）	遠隔医療システムに関する共同研究活動の協議	中島直樹教授（九大病院）、菊地君与講師、Assoc. Prof.Lutfan Lazuardi, Dr. Nurholis Majid 他9名
看護	2月4日	北京化工大学（中国） ガジャマダ大学（インドネシア） マレーシア大学・サバ校（マレーシア）	共同研究者機関との遠隔医療に関する合同ウェビナーの開催（ウィズ・ポストコロナ社会に必要なアジア遠隔予防医療サービス）	中島直樹教授（九大病院）、菊地君与講師、Assoc.Prof. Ruirui Lee, Assoc. Prof. Lutfan Lazuardi, Prof Helen Lazimbang 他6名
看護	3月12日	ビアニ大学（インド）	遠隔医療システムに関する共同研究活動の協議	中島直樹教授（九大病院）、菊地君与講師、Prof. Manish Biyani、他2名
放射	1月18日	ディポネゴロ大学（インドネシア）	Meeting for myocardial segmentation project	河窪正照助教、Dr. Triadyaksa、Dr. Wibowo
放射	2020年度通年	ディポネゴロ大学（インドネシア）	Discussion for CMR data analysis	河窪正照助教、Dr. Triadyaksa、他1名
放射	9月5日	Institute of Technology Bandung (Indonesia)	1. Introduction of Kyushu University 2. Why am I doing researches?	Hidetaka Arimura, Prof. Freddy Haryanto, students and staff at Institute of Technology Bandung 約50人
放射	12月16日	Department of Nuclear Physics - Nuclear Engineering and Medical Physics, Vietnam National University, Ho Chi Minh City (Vietnam)	1. Introduction of Kyushu University and Division of Medical Quantum Science 2. Introduction of our researches 3. Discussion on future collaboration	Prof. Sasaki, Prof. Yabuuchi, Prof. Fujibuchi, Prof. Arimura, Le Cuong Quoc, Truong Gia Huy (International Master's student form Vietnam National University), and Prof. Châu Văn Tạo, students & staff at Vietnam National University 約50人
検査	11月10日	パムッカレ大学（トルコ）	The use of metformin as antiepileptic age	重藤寛史教授、Prof. Mehmet Bülent ÖZDEMİR, 他３人

【達成目標及び期待される成果】（取組の実施計画と関連させること）
※現状分析に基づく定量的な数値目標や実施（達成）時期が示されているか

【現状】	【達成目標】
計画①-1.留学生の受入れ マヒドン大学、香港大学、バンドン工科大学などアジアの大学と学部生の受入れの実績が毎年ある。(此までの実績：学部学生6名、大学院生22名の受け入れ) 計画①-2.保健学国際フォーラムの開催 保健学国際フォーラムを12年間にわたり開催し、アジアの主たる大学の学生や教員との交流を図ってきた。 （フォーラム時の研究者の招聘1名） 計画② 学部生、大学院生の短期留学 マヒドン大学、チュラロンコン大学、高麗大学などアジアの大学へ毎年学部生を派遣してきた。今年度から開始する北欧への派遣は学生の実費負担となっている。 （学部学生6名、大学院生14名の派遣支援、 大学院生は自費およびJASSOでの短期留学） 計画①② JASSOやSGUの獲得で国際交流を進めているが、安定的な資金がない。 計画③ 九州大学病院の遠隔医療教育システムの活用 九州大学病院国際医療部に遠隔医療教育システムが常設されており、複数の国とタイムロスのない交流が可能である。本年の短期留学生の受入れの際に、本学留学中の学生と母校マヒドン大学との通信をおこなった。また、九州大学病院国際医療部とは毎年、医系地区国際化フォーラムも開催しており、良好な連携を構築できている。	（支援期間中） 計画①-1.保健学サマースクールのカリキュラム作成と海外の複数大学からの留学生受入れ 保健学サマースクールカリキュラムを作成し、年度毎の見直しを行い、最終的には九大オリジナルのカリキュラムを構築する。 （今後の予定：学部学生10名の受け入れ） 計画①-2.保健学国際フォーラムの開催、海外研究者の招待による大学院生･教員との研究交流の促進 保健学国際フォーラムをより実質的研究交流の場として発展させる。此には若手教員で構成された「保健学会の明日を考えるWG」委員が協力する。毎年、研究発表の場とし、海外招待者への情報発信や共同研究のシーズとする。 (3名の各分野の研究者を招聘予定) 計画② 学部生、大学院生の短期留学の機会拡充と継続化 マヒドン大学、高麗大学などアジアの大学や北欧のオウル大学への派遣を拡大する。 (学部学生10名・大学院生6～10名を派遣支援予定) 計画③ 九州大学病院の遠隔医療教育システムを活用した短期留学後の継続交流 九州大学病院国際医療部との連携により、遠隔医療教育システムを介し、効率的、継続的な国際交流の基盤整備を行う。 （支援期間終了後） ①-1.保健学サマースクールの継続実施 ①-2.保健学国際フォーラムの継続開催 ② 安定した留学生の派遣 ③ 遠隔医療教育システムによる国際交流の継続実施

【期待される成果】

1. 複数の海外学生と本学学生が合同で学べる保健学サマースクールカリキュラムの構築、および学部生の短期留学派遣の補助により、インバウンド、アウトバウンド留学生の増加が見込まれ、本学における国際的視野をもった医療人育成と輩出が可能となる。特に看護学専攻学生の多くは九州大学病院に就職しており（H29年度卒業生70%）、本院における国際医療を担う人材の育成にもつながる。
2. 遠隔医療教育システムの使用による国際交流の継続化、保健学国際フォーラムの充実化により大学院生の国際研究能力の向上が図れ、欧文論文数の増加が期待できるとともに、将来、国際医療の場で活躍し、研究プロジェクトを指揮できるグローバルな保健医療専門職の育成が可能となる。

【設定した達成目標及び期待される成果に係る進捗状況】

（令和元年度）

※設定した支援期間中の達成目標に対し、本年度の達成状況、設定した達成目標を超えて実施した事項など特筆すべき事項、本年度の達成状況を踏まえ改善すべき事項について、本年度の成果も含め具体的に記載してください。支援期間中を通して達成する目標については、今年度の状況を踏まえ、次年度の見通しを記載してください。

目標①-1サマースクールカリキュラムの作成、および留学生受け入れについては、計画通り実施し、人数は予定を超えて多くの学生を受け入れた。交流先大学との意見交換の場においても、本専攻のプログラム参加学生からの評価は高く、留学希望者が毎年多いなど高評価であった。次年度実施についても、今年度の評価を踏まえ、内容の拡充を図るとともに、すでに日程調整等の連絡を進めているところである。検査学分野、医用量子線科学分野でも、複数の大学から受け入れを行い、目標としていたInboundの目標は達成できた。

目標①-2保健学国際フォーラム等を機に、医用量子線科学分野では、招待したデイポネゴロ大学との共同研究が促進され、その研究成果を学術論文として発表することができた。（The Journal of Biomedical Physics and Engineering, 2019.12. Biomedical Physics & Engineering Express, 2020.01.） また、この交流をきかっけに他の研究テーマについても多施設共同研究を立ち上げることができ、倫理審査申請の準備を行っている。さらに、3月には、マラヤ大学に教員3名が渡航し交流を行う予定であったが渡航中止となったため、次年度の計画に移行する。検査科学分野では、サバ大学とのネットワークが構築でき、特にサバ地区における感染症や生活習慣病に関する研究について検討が開始された。看護学分野では、オウル大学やマヒドン大学の教員との交流の際に、デジタルヘルスや心疾患看護などをテーマに共同研究にむけた討議を行った。国際共同研究費獲得も視野に入れ、共同研究実施の基盤形成を目指す。また、台北医学大学訪問の際にも共同研究のシーズ発掘のための情報交換を行った。3月には、台北へ教員2名が訪問する予定であったが、中止となったため、次年度以降の計画とする。

目標②令和元年度の派遣は、学部生3名　大学院生他が9名であった。
カリキュラムの特性上、派遣は春休みの期間に計画しているものも多く、今年度はコロナウイルス感染の問題により、プログラム自体が中止となるなど、特に学部生の派遣は、3月に台北医学大学、香港大学に計4名派遣予定であったが、計画通り実施できなかった。 大学院生については、目標どおりの派遣を実施することができた。

目標③国際医療部の協力のもと、遠隔医療教育システムの活用について、オウル大学、香港大学の教員にもシステムの概要や活用方法等について説明し、活用の可能性について討議を行った。今後は、マヒドン大学とは、既にシステムを活用した交流実績があるため、遠隔講義や研究交流など継続した交流の基盤形成を目指す。

（令和２年度）

※設定した支援期間中の達成目標に対し、本年度の達成状況、設定した達成目標を超えて実施した事項など特筆すべき事項、本年度の達成状況を踏まえ改善すべき事項について、本年度の成果も含め具体的に記載してください。支援期間中を通して達成する目標については、今年度の状況を踏まえ、次年度の見通しを記載してください。

目標①-1サマースクールの開校、および留学生受け入れは実施できなかった。今後感染状況を考慮し、直接受け入れることができない場合のプログラムについても検討を開始する。

目標①-2オンラインではあるが、例年と同様のプログラム、規模で開催することができた。三分野とも、当該分野の専門家を海外から招聘し講演を行い、学生や教員間の国際交流の場をつくることができた。昨年の国際フォーラムで招聘した海外研究者との研究交流も継続させることができており、また、さらに国や地域を拡大した研究交流の促進も図ることができた。

目標②学生の短期留学の派遣については、直接往来は実施できなかったため目標達成はできなかった。しかし、オンラインでの交流や国際会議参加など遠隔で交流できる機会をできる限り有効に活用した。

目標③九州大学病院国際医療部の遠隔医療教育システムを活用し、また、国際医療部スタッフからの技術支援を受けることができ、国際フォーラムをオンライン（ハイブリット）で、大きなトラブルもなく開催することができた。この経験を軸とし、今後もオンラインまたはハイブリット型での継続的な国際交流につなげる体制をソフト面、ハード面双方から整備することができた。

【実施・評価・改善のための組織体制】

※取組を実施する上で、他部局との役割分担を含め、必要な組織体制が整備されているか。

研究統括	部門長　樗木晶子			
	取組①		取組②	取組③
	サマースクールの開設	国際フォーラム開催 研究成果発表	短期留学の拡大 （学部生・大学院生）	遠隔医療教育システム活用による国際交流拡充
主担当分野/委員会	看護学	保健学部門地域国際連携推進委員会	医用量子線学/検査学	九大国際医療部
責任者	鳩野	水野	藪内	清水
担当者	〔看護〕橋口 〔放射〕佐々木 〔検査〕藤本	〔看護〕中尾 〔放射〕有村 〔検査〕水野	〔看護〕藤田、谷口 〔放射〕杜下 〔検査〕藤本	〔国際医療部〕森山,工藤 〔看護〕諸隈 〔放射〕有村 〔検査〕勝田
協力委員/WG	各分野　国際活動 WG	地域国際連携推進委員/保健学の明日を考える WG 委員	各分野　国際活動 WG	各分野　国際活動 WG

【支援終了後の取組継続に関する計画】

※支援期間終了後も自立的かつ継続的に実施できる内容となっているか。

取組①-1. 保健学サマースクールの継続実施

支援期間中に構築した保健学サマースクールのカリキュラムをもとに、サマースクールの継続を図り、単位の実質化と単位互換をすすめる。海外学生の受入れ経費に関しては外部資金獲得を

めざす予定である。

取組①-2.保健学国際フォーラムの継続開催
　保健学国際フォーラムはこれまで自己予算で開催してきたので、今後獲得できる予算の多寡によるが、予算規模に応じた海外からの研究者や学生の招待も継続してゆく予定である。また、支援期間中に構築した海外研究者とのネットワークを活用し、保健学国際フォーラムをより魅力あるものとし、研究交流の場としても発展を図る。

取組② 安定した留学生の派遣
　単位互換性などの制度が整備されれば、短期留学の付加価値もあがり学生の留学に係る経費の実費負担も容認されやすい。できるだけ外部資金の獲得により学生の留学支援を継続する方針である。

取組③ 遠隔医療教育システムによる国際交流の継続実施
　支援期間中に基盤整備した遠隔医療教育システムを介した国際交流の機会を増やすことによって交流先大学の拡大を図ることもでき、学生や研究者が実際に留学することの経済的負担も軽減できる。経済的に負担の少ない遠隔医療教育システムで留学同等の国際交流を継続する事も可能となる。

【成果の普及に関する計画】

※部局内でのＦＤ等を実施し、部局内はもちろんのこと、全学的に成果の普及に努める計画があるか。

　部局内において、本取組における中間、最終評価および成果報告を目的としたFDを実施する。さらに、これら取組実績を基に、国際保健科目として、選択履修科目を新規設置し、受験生や学外に向けて、九州大学医学部保健学科の国際化を広報していく。
また、各取組における成果の具体的普及計画は以下の通りである。

取組①-1
　他学部におけるサマースクール実施の参考資料とするため、サマースクールの実施報告書を作成し学内へ配布する。また、国内外の保健学科を有する大学への広報資料として活用する。

取組①-2
　国際フォーラム開催報告書を作成し、その成果については、学内、学外へ広報を行う。

取組②
　短期留学学生はその成果を翌年の保健学国際フォーラムで発表する。

取組③
　遠隔医療教育システムを介した国際交流の実績においては、九州大学病院アジア遠隔医療開発センター（Telemedicine Development Center of Asia, TEMDEC）年間活動報告書で報告するとともに、毎年開催している医系地区国際化フォーラムにてその成果報告を行う。

【その他の進捗状況】

（令和元年度）

※成果の普及に関する計画に係る進捗状況について具体的に記載するとともに、組織体制の変更、支援終了後の取組計画について変更がある場合は記載してください。

取組①
サマースクールの実施後、プログラムおよび留学生から提出されたレポートなどから、留学受け入れ報告書を作成した。報告書を基に、プログラムの成果についての情報共有をおこなった。また、釜山大学や台北医学大学など交換留学を実施していない大学にも、本学訪問の際には、プログラムの概要などその報告書をもとに広報を行った。
国際フォーラムの報告書についても、関係各者に送付し、その実施成果の報告を行った。

取組②
　短期留学派遣を経験した学生はその成果を、保健学国際フォーラムや新入生、および新学会ガイダンス等で発表を行い、本学学生に向け、海外留学の動機づけとなる機会を設けた。

取組③

遠隔医療教育システムを活用した国際交流の実績も含めた、本プログラムの実施とその成果については、毎年3月に実施している医系地区国際化フォーラム（九大医歯薬学部および九大病院国際医療部が参画）で発表する予定であったが、コロナウイルス感染拡大防止のためフォーラムが延期となったため、本年度内には、実施できなかった。FDの開催についても、同理由により計画を中断した。
今年度の取組の内容については、NEEPの活動報告書（2019年度版）として作成し、紙面により学内外で情報共有を行うとともに、次年度に向けた取り組み内容の検討の際に活用する。

組織体制の変更：
取組実施担当者の統括者である樗木晶子部門長が定年退職となるため、R2年、4月からは佐々木雅之新部門長がプログラムの統括を担当する。
その他、各取組の担当者のうち、谷口教授、藤本教授も退職のため、組織体制から外れる。
それら変更に伴い、新たに、看護学分野、後藤教授、医用量子線科学分野、藤淵教授、検査学科学分野、重藤教授、内海教授の4名が新たに組織体制の中に入り、各取組の実施者となる。
各取組の責任者を含むその他担当者に変更はないため、本プログラムの遂行上、問題となることはない。

（令和２年度）

※成果の普及に関する計画に係る進捗状況について具体的に記載するとともに、組織体制の変更、支援終了後の取組計画について変更がある場合は記載してください。

取組①　国際フォーラムの報告書は例年通り作成、関係各者に送付し、その実績成果の報告を行った。また、R3年はサマースクールは開催できなかったが、本プログラムの広報の一環として、保健学部門看護学分野の国際活動を紹介するためのパンフレットを作成するとともに、英語版のホームページも開設し、海外の関係大学への広報活動の基盤を整備した。
さらに、日本看護系大学協議会（会員校287校）主催のセミナー「コロナ禍における国際活動」（R3.2.20）において、看護学分野の学部における国際交流の実績が評価され、九州大学の実例について発表依頼があり紹介した。
取組②　R3は、学生の短期留学が出来なかったため、留学成果等の発表の場を設けることができなかった。オンラインで学術締結校の学生と交流を図ることができた学生から出された感想については、教員間で共有し、コロナ禍における国際交流の進め方を検討する際の情報として活用した。
取組③　遠隔医療システムを活用した国際交流の実績も含めた、本プログラムの実施とその成果については、R3年3月に開催された医系地区国際化フォーラムで発表した。

支援終了後の取組計画について
本プログラムの成果をもとに、R３年度以降は、対面での交流に加えオンラインでの交流の強味も生かした、Withコロナ、Afterコロナ時代における学生、教員の国際交流の促進に向けた検討を地域国際連携推進委員会を中心に進めていく予定である。